

ことぶきだい

公民館報

優しく思いやり 明るく楽しい町 寿台

平成31年3月1日現在の寿台
 総世帯数 1,379世帯
 総人口 2,871人
 男 1,359人
 女 1,512人

松本市寿台公民館
 〒399-0021
 松本市寿豊丘649-1
 TEL. (0263)58-6561
 FAX. (0263)86-7964

まゆ玉づくり

1月12日(土)に寿台公民館で食育事業の一環として「まゆ玉作り」の教室が開催されました。寿台地区食生活改善推進協議会の皆さんが講師となり、親子連れ約20人が参加されました。

松本地方の民俗行事「三九郎」では、柳の枝先にまゆ玉を刺して飾り、焼いて食べることで一年間の無病息災を祈ります。

教室では、色とりどりのまゆ玉を親子で作り、色合いを工夫しながら柳の枝へ飾りました。参加した小学生の男子は「きれいにできた。早く三九郎に行つて焼いて食べたい」と柳の枝を持ちながら嬉しそうに答えてくれました。



▲様々な色や形のまゆ玉を作りました

認知症サポーター養成講座

1月19日(土)に寿台地区人権啓発推進協議会による寿台町会連合会役員研修会「認知症サポーター養成講座」が寿台公民館で開催され、約50人が参加されました。

講師の八田桂子さんは、「認知症で困っているのは家族だけではない。本人も苦しんでいる。だからこそ、ご近所や友人が声をかけ、さりげなく手助けすることが大事である」と話されていました。認知症を理解して今まで通りに付き合ひ、地域で支え合うことの大切さを改めて学びました。また、認知症予防にはサークル活動やサロンに出かけて、人と交流することも有効であるとのことでした。



▲受講の証としてオレンジリングが贈られました

研修会の後は、会場を市内のホテルへ移し、町会連合会新春懇談会が開催されました。連合役員や連合顧問を囲んで懇談し、余興なども楽しみながら和やかな時間を過ごしました。

ハッピー食堂開設3周年

寿台児童館では、2016年から寿台町会連合会・地域ボランティアの皆さんのご協力をいただき、「ハッピー食堂」を開催しています。

子どもも大人も、どなたでも参加していただける場所として、みんなで一緒に食事をすることの楽しさを感じてもらっています。子どもたちは地域とつながることで、遊び・食べ・「生きる力」を培っています。

この3年間、自分たちで考え、失敗や成功を経験する場を提供する「ハッピー弁当」、自分たちと違う文化や国を学ぶ「ハッピーワールド」、松本市の交付金を利用した「おむすびくらぶ」を実施しました。2018年度は松本市交付金を利用した「ハッピー食堂」をメインとして、学習会、集団遊び、食事会、生活体験などを、年30回開催しました。

ここでは、地域の皆さんも一緒に作り、学び、先生になっただけでなく、文化や伝統食の伝承も行いました。

また、松本市が推奨する「フードロス・フードドライブ活動」も学び、食べ物の大切さや「もったいない」があり「ありがとう」にの優しい気持ちを持つようになりまし。来年度も継続して開催していきます。地域の皆さんのご参加、お待ちしております。

※寿台児童館の子どもの居場所作り「ハッピー食堂」とその展開である「ハッピー弁当」「フードドライブ」は、児童健全育成推進財団の厚生労働省委託事業「児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に係る調査研究業務」の一環として「遊びのマルシェ」で紹介され、全国のモデルケースとしてマニユアル化されました。



▲来年度もハッピー食堂をよろしくお願ひします

やしょうま作り

2月7日(木)に寿台地区食生活改善推進協議会による「やしょうま作り講座」が開催され、会場となった寿台公民館へは親子連れを含め17人が参加されました。

「やしょうま」とはお釈迦様の亡くなった日にお供えする信州伝統の餅菓子です。米粉を蒸して色付けし、それらを組み合わせて絵になるように伸ばしていきます。十分に伸ばした後に金太郎あめのように切っていくと、目で楽しめる、食べておいしい「パンダ」のやしょうまが出来上がりました。



▲可愛いパンダが出来上がりました

編集後記

館報編集委員会

岡 義正(二丁目)

一年間を通して公民館の仕事をしていただきました。活動を通して寿台や一丁目の問題点を、考えさせられることが多くなりました。私には微々たることしか出来ませんが、何か一つでも町会のためになればと思います。

町内公民館館長会長

荒川 道永(二丁目)

今回、町内公民館館長会活



動に真面目に出席しました。この時の内容をどうやって伝えたいのか? 仕事だけでも精一杯、地区の活動が中途半端になって、こんな人間がやっていては、地区は良くなりません。

宮澤 富美(三丁目)

私に務まるのかと不安でしたが、町内公民館長の皆様、寿台公民館職員の方々に温かく支えていただき、本当に微力ながら活動に参加することが出来ました。

公民館事業に携わっている方々の熱意や、楽しみにしている参加者に触れ、改めて公民館事業の大切さを感じる事が出来、貴重な経験になりました。一年間ありがとうございました。

手塚 久子(四丁目)

一年間、館報の編集に関わらせていただき、寿台の様々な行事においての原稿の依頼も、快く受けていただき、又的確に書かれており、素晴らしい館報「ことぶきだい」が出来ました。平成最後の館報となりました。皆様の温かな御協力に感謝申し上げます。

東郷 麻由美(五丁目)

他の町会との交流のある役員をやらせていただくたびに思うことは、どの町会も役員の高齢化と人手不足であると感じます。自分と同年代はおろか、子育てが一段落した世代も少ないという、役員の兼任も少なくないのではないのでしょうか。

町内・地区の公民館が住民の交流の場となり、交流から人材の発掘が出来るようになればいいと思います。

館報編集委員長

上條 健彦(東町会)

大変、お世話になりました。ありがとうございます。

さて平成が終わる今、日本が「輝きだした時代」「昭和」が終わって31年。平成ももうすぐ終わろうとしています。

そうなる「昭和」はふた昔前の記憶となって、忘却の彼方へ置き去りにされてしまふのだろうか。と頭をよぎります。

しかし目をやると、至る所に昭和の片鱗がいぶし銀のように存在を主張している光景に出くわします。

西暦が淡々と数字を重ね、昭和、平成と元号は変わるが、それぞれの時代の色彩は確かに、そして見事に違っています。輝く昭和に今、目を向けて見ると、昭和を生きた我々なのかもしれません。

奥原 勝義(八丁目)

初めまして。八丁目の奥原です。八丁目の公民館長にさせていただいて一年が過ぎようとしています。私は八丁目公民館長の役目を果たせずに来ました。寿台の行事、文化祭運動会に不参加で誠に申し訳ありませんでした。あいにく仕事と重なってしまいました。

これからの寿台の公民館活動がうまくいくように祈っています。

館報全市版編集委員

小野里 恭子(九丁目)

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ。公民館サークル活動で配られた手本のうたです。私は、このうたの意味こそ地域社会の在るべき姿だと強く思いました。

活動を通して、このうたに出会えたこと、多くの方に声かけが出来たことを嬉しく思いました。